



取付説明書

10cm コアキシャル2ウェイトレードインスピーカ

SGS-1000

取付説明書：090003-29580700

取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故や怪我の原因となる場合があります。本機の実装には、専門技術と経験が必要です。お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。「取付説明書」をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

販売店様へ

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

もくじ

取り付ける前に

構成部品

2

安全に正しくお使いいただくために

3

接続について

接続方法

5

取り付けについて

スピーカの取り付け

6

ギボシ端子の接続方法

8

構成部品

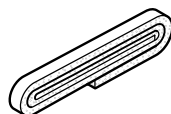
作業前に構成部品が揃っているか確認してください。



① スピーカ (R)
×1



② スピーカ (L)
×1



③ クッション
×2



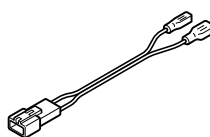
④ タッピングスクリュ
(φ5×16) ×4



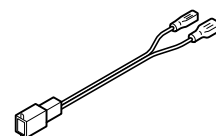
⑤ タッピングスクリュ
(φ4×16) ×4



⑥ 平座金 (φ4用)
×4



⑦ 接続変換コード
(トヨタ車用) ×2



⑧ 接続変換コード
(ホンダ車用) ×2



⑨ 接続変換コード
×2



⑩ ギボン端子 (オス)
×4



⑪ ギボン端子 (メス)
×4



⑫ ギボンスリーブ (オス用)
×4



⑬ ギボンスリーブ (メス用)
×4

⚠ 注意

取り付け作業の際にスピーカを裏向き（コーン紙部を下向き）に伏せて置いたり、コーン紙部に手を触れる、ツイータ部を持つなどするとスピーカが壊れる恐れがあります。ご注意ください。

安全に正しくお使いいただくために

この取付説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本機取り付けのために必ず守っていただきたいことや、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。



アドバイス

本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと
知っておくと便利なこと、知っておいていただきたいこと



警告

- 本機はDC12V ⊖ アース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V 車での使用はしない。火災の原因となります。
- 本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしない。交通事故や怪我の原因となります。
- 車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行う。火災の原因となります。
- 取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス ⊖ 端子をはずす。プラス ⊕ とマイナス ⊖ 経路のショートによる感電や怪我の原因となります。
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと事故の原因となり危険です。
- 音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。事故・火災・感電の原因となります。
- 万一、異物が入った、水がかかった、煙りが出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談する。そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。
- エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機の取り付けと配線をしない。エアバッグ動作を妨げる場所に取付・配線すると交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、事故の原因となります。
- 視界や運転の妨げになる場所へは取り付けないでください。交通事故の原因となります。
- ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用する。破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。
- スピーカ端子が車両部品、ボデー等と干渉や接触しないように取り付ける。事故・火災・感電の原因となります。

注意

- 本機の取付・配線には、専門技術と経験が必要です。安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。
- 必ず付属の部品を指定通り使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できずに外れることがあります。
- 雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気、埃、油煙の多いところへの取り付けは避けてください。本機に水や湿気、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。
- しっかりと固定できないところや振動の多いところなどへの取り付けは避けてください。外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。
- 取付説明書で指定された通りに接続してください。正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。
- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。
- 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。
- コード類の配線は、高温部を避けて行ってください。コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。
- 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。
- 本機を車載用として以外は使用しないでください。感電や怪我の原因となることがあります。

接続方法

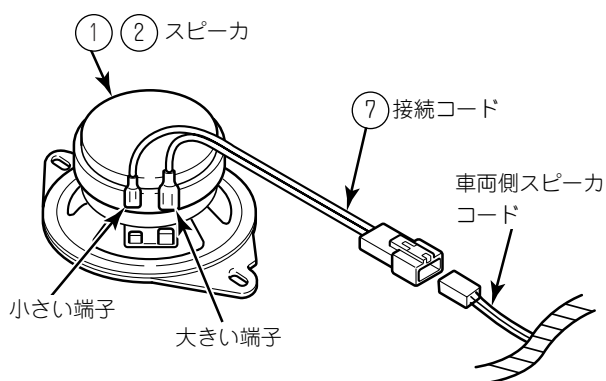
⚠ 警告

- 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止める。電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。

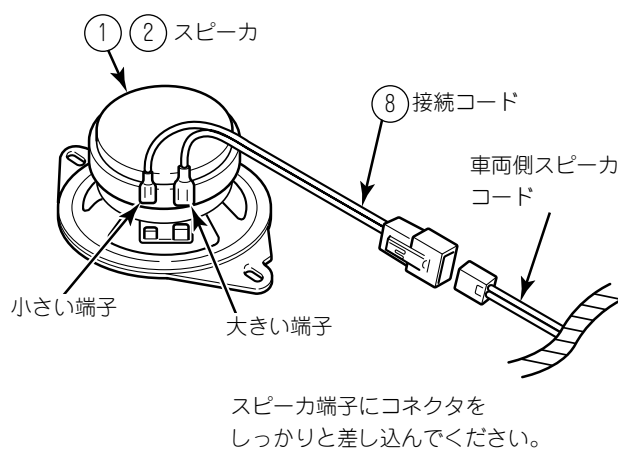
付属の接続変換コードが車両側コードと接続できる場合

- 1 付属の接続変換コードを使用してスピーカを接続する。

トヨタ車の場合



ホンダ車の場合

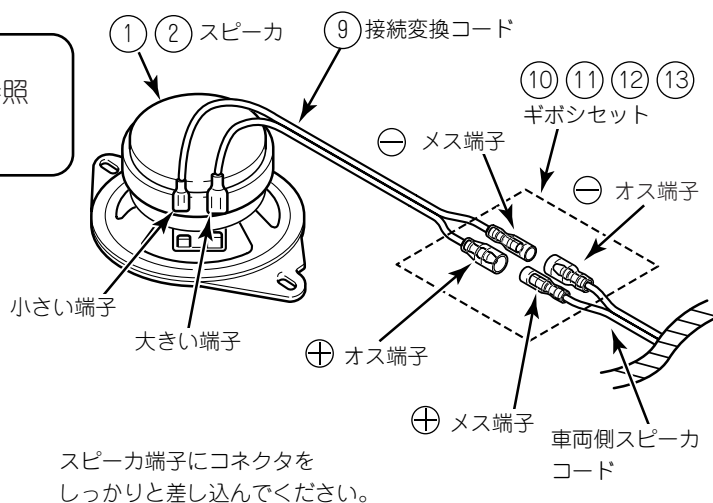


付属の接続変換コードが車両側コードと接続できない場合

- 1 接続変換コードと車両側スピーカコードをギボシ端子に付け替えてスピーカを接続する。

👉 アドバイス

ギボシ端子の接続方法については、P.8を参照してください。



スピーカの取り付け

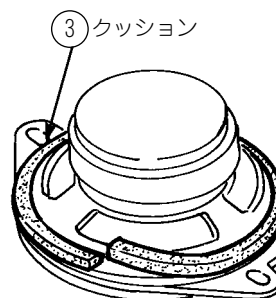
取り付け上のご注意

⚠ 警告

- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。
- 本体の取付けは、必ず付属のネジを使用して確実に固定して下さい。

👉 アドバイス

クッションをスピーカ裏面取付部の外周面に貼り付け、使用する取付ねじ穴（2ヶ所）のクッション部をカッター等で切り取ってください。
※防振や防水の為、必ず貼り付けてください。



－取り付け例（インパネダッシュボードに取り付ける場合）－

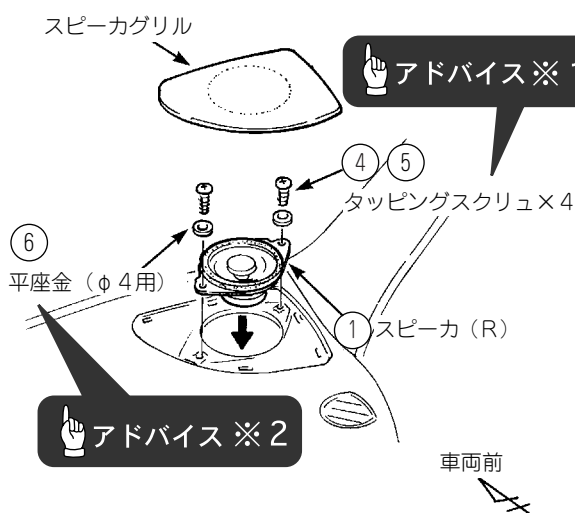
1 スピーカグリル、既設スピーカ等を取り外す。

2 スピーカを車側に取り付ける。

👉 アドバイス

※1
車種によりタッピングスクリュは、④と⑤のいずれかを使用してください。

※2
平座金は、タッピングスクリュ（φ4×16）⑤を使用する場合にのみ使用してください。



3 取り外した部品を元通りに復元する。

👉 アドバイス

スピーカの取付作業は、右側を表しています。
左側も同様に作業を行ってください。

—取り付け例（ドアに取り付ける場合）—

1 ドアトリム、既設スピーカ等を取り外す。

2 スピーカを車側に取り付ける。

👉 アドバイス

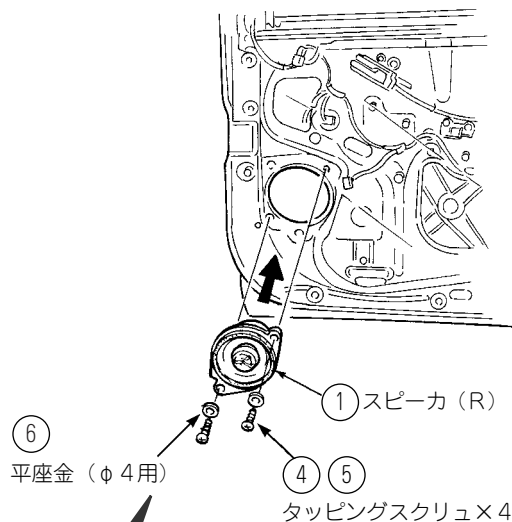
※1
車種によりタッピングスクリューは、④と⑤のいずれかを使用してください。

※2
平座金は、タッピングスクリュー（φ4×16）
⑤を使用する場合にのみ使用してください。

3 取り外した部品を元通りに復元する。

👉 アドバイス

スピーカの取付作業は、右側を表しています。
左側も同様に作業を行ってください。



👉 アドバイス ※2

👉 アドバイス ※1

ギボシ端子の接続方法

- 1 車両ハーネスの⊖側にギボシオススリーブを挿入する。
- 2 ⊖側にギボシオス端子を圧着ペンチでかしめ、スリーブを装着する。
- 3 同様に車両ハーネスの⊕側にギボシメススリーブを挿入しギボシメス端子を圧着ペンチでかしめ、スリーブを装着する。



アドバイス

車両ハーネスの⊖側にギボシオス端子、⊕側にギボシメス端子を間違わないように取り付けてください。

